

しままなや 「島の学び舎」だより

第5号（令和2年1月）

発行者：下松市教育委員会

編集：下松市郷土資料展示収蔵施設

「島の学び舎」

電話番号（0833）52-0860

クローズアップ

「長岡外史の書軸」

当館が所蔵する長岡外史関係資料は、写真パネル、書籍がほとんどで、今まで、外史個人に直接関係する一次史料がありませんでした。

この度、寄贈を受けた書軸は、初めての一次史料です。

お酒に酔って気持ちよくなった様子がうかがえる五言絶句（五字の句四つからなる詩）が書かれています。

半日茲来飲 高楼俗□空
醉餘天地窄 夢入瑞雲中

（□は判読不能文字）

なお、後半部分が同一の書が戸田大八郎『航空とスキーの先駆者 人間長岡外史』五二頁に掲載されています。



新展示

「下松市勢要覧昭和十五年版」



市制施行初年度の昭和十四年度の下松市の概況を記した資料です。

その表紙には、同市勢要覧の位置地形の項に記された「下松湾は笠戸島、大島に擁せられたる一大袋形をなす自然の良港にして上古青柳浦と称す、海深く波静にして古より内海航路の寄港地として著名なり：東端宮の洲は砂嘴長く突出し笠戸島に迫り、老松生い茂り白砂青松風光明媚真に愛すべき勝地なり、今や海岸一帯重工業勃興し濛々と立ち昇る黒煙昼夜を絶たず、響く機械の音は工都としての殷盛を物語り居れり」をイメージしたイラストが描かれ、裏表紙には、金輪社と降臨松が描かれています。

なお、本文の具体的内容については、「ほしらんどくだまつ」歴史民俗資料展示コーナーで開催中の企画展「昭和・平成・令和 くだまつ80年の歴史」正面展示パネルで紹介されています。

話題の資料

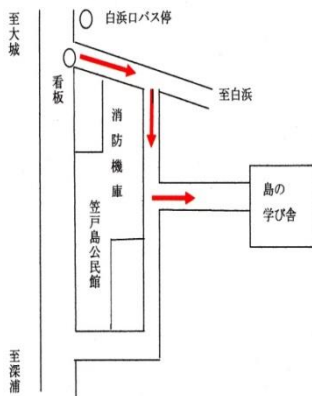
これは、現在の中宮公園展望所付近で出土したと伝えられる陶製経筒です。中世には、お経を筒状の容器に入れ、塚状に盛り上げた土中に埋め、来世を祈ることが流行しました。この筒を経筒、場所を経塚といいますが、



経塚は現存せず、お経も残っていないかもしれません。

（編集後記）

昨年行った昭和三十年代の下松をテーマにした企画展は、みなさまから懐かしいという声をたくさんいただき、大好評でした。今後とも、資料の充実に努めていきたいと思っておりますので引き続きよろしく願います。



開館日時 火・木・土・日・祝
10時～16時